

令和 3 年度学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	45	学校名	県立土浦第一高等学校				課程	全日制		学校長名	中澤 齊					
副校長名	片岡 達郎			教頭名	須藤 一道				事務(室)長名	大森 伸一						
教職員数	教諭	53	養護教諭	1	常勤講師	2	非常勤講師	3	実習教諭、実習講師 実習助手	1	事務職員	5	技術職員等	3	計	72
生徒数	小学科	1 学年		2 学年		3 学年		4 学年		合計		合計クラス数				
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	普通科	149	133	183	134	181	131			513	398	23				

2 目指す学校像

- ・豊かな人間性の涵養と人格の形成を図り、次代をリードする高い知性とたくましい心身を有し、社会の発展に貢献できる人材の育成を目指す。
- ・教職員の共通理解の下、生徒一人一人のより高いレベルでの進路実現を目指し、地域社会の期待に応える進路指導を実践する。

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む）

項目	現状分析	課題
学習指導	より高度で難易度の高い学習内容を求めて入学してくる生徒が多く、主体的な学習スタイルを身につけることで、深い理解につなげている。一方、本校のカリキュラムについていけない生徒もおり、学習のサポート体制の充実を図る必要がある。	本校の良さが生きるように、自らが学ぶ姿勢を丁寧に教えていく必要がある。確かな学力をつけるために、学問本来の面白さに気付く取り組みをICT等の活用も含め、工夫する必要がある。
進路指導	最難関の国公立大学や医学部への進学を希望する多くの生徒が入学してくる。OBOGとの交流機会を多く持ち、将来の職業を考える取り組みを大切にしている。本人と保護者の希望をかなえるため、個別面談を充実させ、さまざまな取り組みを行っている。	自分の適性を知り、職業を知り、進路目標を持つ。これらの情報提供を積極的に行うことで、進路目標を持つことの大切さ、それに向かって努力することの大切さを、学校生活を通して伝える必要がある。自己肯定感や達成感を持てる活動を大切にする。
生徒指導	基本的な生活習慣が身についた生徒が多く、安全・安心に学校生活を送れる環境にある。一方、登下校時の自転車の乗り方やバス乗車のマナー、さらにSNS利用については、指導が必要な機会が増している。	「この程度は分かっている」と思うことも順を追って、丁寧に指導していく必要がある。考えもしなかったことが起こったときに、自らが考え、安全な行動が取れるように指導する。
特別活動	文化祭、体育祭などの学校行事が生徒主体で企画運営されている。部活動を含め、集団活動を通して得られた達成感・自己肯定感、何事にもかえがたい貴重な財産になっている。	学校生活をより充実させるために、学校行事や部活動はなくてはならない活動であり、このような活動を通して、リーダー育成につなげていく必要がある。
働き方改革	生徒によりよい生活や学習の環境を提供するには、ゆとりとやりがいをもって指導に当たることが重要である。生徒や保護者の期待に添うきめ細かな対応を行うことにより、仕事量や時間が増加している。	日直の業務の見直しや授業変更におけるICT活用など労働時間短縮に向けた取り組みは行っているが、創意工夫をこらした授業や考査問題の作成、多様化する進路への対応、部活動の指導などの特色ある教育活動のためには、さらなる業務改善を図る必要がある。

4 中期的目標

1	教師と生徒の信頼関係を深め、心の居場所が確保できる学年・ホームルーム運営を推進する。
2	学力向上に資する特色ある教育課程を編成するだけでなく、自ら学ぶ意欲を喚起し、思考力、判断力、表現力等を育むために、より効果的な教科指導の在り方を組織的に研究、実践する。
3	特別活動を充実させ、部活動、学校行事等を通して、自主自立の精神を培い、豊かな人間性を育む。
4	個人面接、キャリアガイダンスをより充実させ、生徒一人一人の高いレベルでの自己実現を支援する進路指導を推進する。
5	生徒の心情に対する理解を深めるとともに、より適切な指導・助言の在り方を求め、教育相談の充実に努める。
6	本校独自の探究活動を展開し、世界の舞台上で活躍できるリーダーの育成を推進する。
7	高校と附属中が連携・協力し、お互いの良さを知り、学校の活力につなげていく。
8	I C T活用を推進し、授業改善を果たすとともに、活動を通して、情報活用能力の重要性を知る。
9	働き方改革による教員の心身の健康維持とワーク・ライフ・バランスの向上により、自らの人間性や創造性を高めるとともに、生徒と向き合う時間を確保し、効果的な教育活動を行う。

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
主体的学習態度の育成と質の高い授業の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に対する意欲と理解を高め、自主的・積極的な学習態度を育成する。 ・主体的に学ぶ姿勢を育て、効果的な学習活動を支援する。 ・指導法の研究を各教科で行い、授業改善、指導力向上を図り、深い学びの場の提供に努める。
豊かな人間性の涵養	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣の確立に努めるとともに、部活動や委員会活動等への積極的な参加を促す。 ・いじめを許さない心や、他者を思いやる心の育成により、豊かな人間関係づくりを図る。 ・個別面談や教育相談を充実させ、生徒の悩みや問題の解決に向け支援する。
高い「志」実現に向けたキャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・高い「志」を持ち、常に前向きに努力し続けることにより、自分の進路を自ら切り拓いていく態度を育成する。 ・生徒の自己理解を促し、高い目標設定と絶え間ない努力ができるよう、個別面談の充実を図る。 ・将来において、各界でのリーダーをめざすべく、個人の可能性を伸ばせるように支援する。 ・学びのプロセスを記述するキャリアパスポートの作成・活用を推進する。
探究活動及びグローバル人材育成を推進	<ul style="list-style-type: none"> ・探究活動を強く推進し、課題発見能力、課題解決能力の育成を図る。自ら調べ、考え、発表する姿勢を育て、主体的、対話的な深い学びにつなげる。 ・世界に通用する人材育成ができるよう、コミュニケーション能力、英語による発信力強化を図る。
学校情報の積極的発信と地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の情報を積極的に発信するために、学校ホームページや学校通信等を充実させ、本校の魅力を伝える機会を増やす。 ・地域とのコミュニケーションやふれあいの機会を大切にし、小中学校や町内会等との交流を図る。
附属中学校との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・高校と附属中のそれぞれの良さを学校の活力に結びつけ、学習活動や学校行事、特別活動のさらなる進化・発展に努める。
I C T機器の効果的な活用	<ul style="list-style-type: none"> ・I C T機器の効果的な活用を通じ、生徒の学習理解を幅広くサポートする。 ・授業改善を考える手立てとして、効果的な活用で授業力向上につなげる。
働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導等の質の維持・向上を図りつつ、業務の効率化を進める取組を推進することで、職員の負担軽減、環境改善を図る。 ・在校時間の自己管理や休暇取得のしやすい環境づくり等を推進し、働き方の意識向上に努める。 ・衛生委員会等で超過勤務・ストレス等を把握し、課題の改善・解決に向けて取り組む。